

スマランという街

日本語パートナーズインドネシア 7 期として中部ジャワ州スマラン市に派遣されております、小菅莉緒です。今回は私が派遣されているスマラン市についてお伝えします。『地球の歩き方』でさえ4ページしか割かれていない街ですが、たくさんの魅力があります。

○スマラン基本情報

スマラン市はジャカルタから飛行機で1時間ほどかかります。日本からの直通便は無く、小さい街ですがインドネシア第5の都市と呼ばれています。街中には大きなショッピングモールがあり休日は多くの家族連れや観光客で賑わいます。しかし、車を30分ほど走らせると山道に突入し、いくつもの山を越えなければ隣町へ行くことができません。都会のように洗練された場所もあれば、自然に触れることができる場所もある、とてもバランスの良い街だと思います。個人的な意見ですが、高校時代に通っていた熊谷市に雰囲気が似ている気がします。

また、中華系インドネシア人のルーツとなっているためか、国民の8割がイスラム教とされているこの国ですが、クリスチャンもある程度おり、キリスト教系の学校もあるほどです。



街中の様子。車よりもバイクが多く、車道を横断するのも一苦勞ですが、もう慣れました。



しばらく車道を走らせると現れる突然の自然。壮大です。

○住みやすい街

観光地としては世界遺産である Lawang sewu（日本語にすると“千の扉”）やオランダ式の建物が多く立ち並ぶ Kota lama（日本語にすると“古い街”）などがありますが街自体も小さいので残念ながらあまり多くありません…。ですが、生活に必要なものは全て揃えることができるし、美味しいレストランやおしゃれなカフェなどもあります。しかも、他の都市と比べると物価が安い印象です。観光地としては少しイマイチだけど、とても住みやすい街というのがここまで生活してきた中での印象です。



左：アサイーボウル 右：エッグベネディクト
住居近くのカフェにて。日本で食べたことないものをインドネシアで食べました。

○“外国人観光客”として扱われない

私たちはこの街で働いています。観光客ではありません。日本人はただでさえ外国では目立つ存在であり、それはスマランでも変わりません。しかし、この街に住む人々は、私たちを“スマランで働いている外国人”として扱ってくれます。例えば、タクシーなどを利用した時も外国人が乗っているのですから「観光ですか？」と聞かれるのが普通ですが、ここでは「働いてるの？留学なの？」と聞かれます。インドネシア語があまり理解できていないと分かれば言葉を変えて説明してくれますが、外国人だから、観光客だからといって、特別な対応はしてくれません。ですが、この街で働いている私としてはその対応こそが住民として認められている気がするので、嬉しく思います。

最後に、スマランへの派遣を決めたのは私ではなく国際交流基金ですが、この街に派遣されて本当によかったと思っています。5ヶ月近く住んでいます。学校の先生方や生徒たちはもちろん、住居の管理人、行きつけのレストランやマッサージ店のスタッフ、コンビニやスーパーの店員さん、タクシーの運転手まで、たくさんの人の優しさに日々触れています。帰国まで数えられるほどとなってしまいましたが、その優しさへの感謝を忘れず過ごしていければと思っています。